



ヒマラヤ山脈はどうやってできたの

ヒマラヤ山脈は海の底だった

今のインドは、ユーラシア大陸の南にくっついていて、半島のようになっていますが、恐竜が絶滅した白亜紀の終わりごろ(約6500万年前)、インド大陸としてずっと南にありました。そのころは、アフリカ大陸やオーストラリア大陸と、つながっていました。南にあったインド大陸とユーラシア大陸の間には、テチス海(古地中海)という海が東西に長く広がっていました。この海底が、今のヒマラヤ山脈にあたります。この海には、たい積物がたくさん積み、特にインド大陸の北側や、ユーラシア大陸の南側に厚く積み重なりました。

インド大陸とユーラシア大陸におし上げられてできた

インド大陸は、アフリカ大陸やオーストラリア大陸と分かれて北へ移動し、新生代に入ると、しばらくすると、ユーラシア大陸にぶつかりました。そのとき、テチス海の海底も北へ移動して、ユーラシア大陸の下へもぐりこみました。テチス海の海底に積もっていた、たい積物は、両方の大陸にはさまれて、おしぢめられて盛り上がり、全体が高くなりました。そのあとも、だんだん高くなり、世界で最も高い山が集まっているヒマラヤ山脈ができました。ヒマラヤ山脈の中でも、世界でいちばん高いエベレスト山の頂上付近は、石灰岩でできています。石灰岩は、海底でたい積物が積もってできた岩石です。それで、エベレスト山が、昔は海底であったことがわかります。(監修・国司 真)

